

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100632		
法人名	有限会社ミテラ		
事業所名	洛和グループホーム大津 2F		
所在地	大津市大門通り11-11		
自己評価作成日	平成23年11月28日	評価結果市町村受理日	平成24年4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別性を大切にし、利用者一人ひとりの力に合わせた役割や楽しみが持てるよう支援している。行事には個別ケアを取り入れ、普段中々出来ない個別的な外出を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2570100632&SCD=320&PCD=25
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年1月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームの玄関やリビング、利用者の居室には職員の思いがこもった手作りの装飾が並び、温かみのある空間づくりがなされ、利用者は笑顔で居心地の良く過ごされています。移転して二年目ですが、地域との関係も良好で様々な行事に誘いを受け、ボランティアや中学生の訪問もあり、認知症サポーター講座も開いています。ホームの理念である「つなげよう 笑顔と心と地域の輪」を意識して、地域の方々との連携とホームの理解を強め、小学校への関わりを検討するなど、交流を広げる施策を話し合っています。管理者を中心とした職員間のチームワークで、利用者が楽しく過ごせる為の「気付き」を共有し、それぞれの意見を活発に出し合い、互いに支え合いながらケアの充実を図っています。利用者の本意を汲み取る課程を職員全員で取り組むなど、質の高い職員育成が成されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲げ、職員で共有している	職員で話し合って作ったホーム独自の理念を利用者が筆書きし、玄関にわかり易く掲げています。月二回の会議で理念を復唱し意識付けや浸透を図っています。利用者の個性を大切に、笑顔で過ごしてもらえるよう、楽しみに繋がることは何かを常に考えながらケアしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で情報交換し、地域の行事への参加や手伝いを行うなど、交流に努めている。	地蔵盆や運動会、焼き芋パーティなどの地域行事に自治会より誘いを受け、積極的に参加しています。老人クラブ会長や自治会長、福祉委員等の地域の役員の方々との関わりも多く、良好な関係が構築されています。中学校の体験学習の受け入れも行っており、今後は小学校にも交流を広げたいと方策を立てています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座を開催し、認知症への理解を深めてもらえるよう働きかけている。また、近隣の事業所や民生委員と定期的に勉強会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や評価を行い、ご家族や地域の方の意見をサービスの向上に生かせるよう努めている。	会議は利用者、家族、学区民協連会長、民生委員、福祉委員、地域包括支援センター職員等の参加を得て、2ヶ月に一回開催しています。ホームの状況、活動報告を行い、参加者から希望や様々な提案をもらっています。会議内容は意見交換も含め詳細に議事録に残し、家族にも報告しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録や、外部評価結果を担当者に直接持っていくなど、より良い関係作りに努めている。	運営推進会議の議事録を管理者が直接役所へ届けています。介護保険課の担当者にもその都度質問や相談をしたり、更新時の情報開示書類はファックスではなく、取りに向くなど連携を密にし関係性が継続できるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で理解を深め、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	法人内の研修に参加し、会議で全職員に伝達研修を行い共有を図っています。カンファレンスでは気になる対応がないか話し合い、振り返りや確認の機会を持っています。帰宅願望の強い利用者には、まず原因を探り気持ちを受け止めた対応をするよう心がけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部の研修で理解を深め防止に努めている。		

洛和グループホーム大津(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部の研修で学ぶ機会があり、必要に応じ活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に十分な説明を行い、理解・納得できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、年に2回アンケート調査を行い、ご家族の要望や意見を反映させている。	家族の来訪の際に日常の様子を伝え、気になる事や要望を聞いています。アンケート結果を踏まえて満足度を上げる為にどうすべきか項目を取り上げて具体案を話し合っています。改善に向けて実践することで評価が上がった例もあり、結果分析を充分に行い、サービス向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回カンファレンスを行い、意見や提案を聞く機会を設けている。また、個別面接の機会もある	毎月の会議では業務の手順やケアの方法など職員から活発な意見、提案が多く出されています。管理者は職員の案をできる限り受け入れ、まず試みて結果を見て再考するように促しています。年二回の個別にヒアリングでは業務の希望や意向も聴いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価を行い、職員の資格取得の希望や職種の希望を聞きはやくに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量に応じた研修参加や内部の全体研修への参加の機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修や外部の研修参加の機会を作り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接で話す機会を持ち、要望に耳を傾け安心を確保する為の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接で話を聴き関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を十分に聴き、必要としている支援を見極め他のサービス利用も含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合える関係作りを意識した支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の情報を共有し、常に相談し協力し合える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪した知人と居室でゆっくり過ごしてもらうなど、関係が継続できるよう支援している。	利用者の以前からの友人や、趣味の仲間が遊びに来たり、教師をしていた方の教え子の訪問等があります。昔に戻ったそれぞれの利用者の様子から普段見せない人柄が伺えることもあり、アセスメントや個別ケアに繋がっています。個別の外出では家族からの情報や協力を得て、希望する馴染みの店での外食や、帰宅の支援も行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を理解し、状況を見極めながら支え合える関係を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や連絡があればその都度支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しながら、希望や意向の把握に努め、これまでの生活が少しでも継続できるよう支援している。	入居時に利用者、家族に暮らしの希望を聞き、センター方式のアセスメント用紙を使用して生活歴や趣味、嗜好等の情報収集を行っています。利用者の日頃の表情、サインを見逃さないように留意し、介護日誌の裏面に気付きをメモする習慣を付け、情報を共有して個々の利用者の本意を話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントやセンター方式を活用し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートにて職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活援助計画書を作成し、3カ月に一度モニタリングを行っている。プラン作成時は、本人・家族の意向を確認し関係者と話し合い、現状に即したプランの作成に努めている。	利用者、家族の希望を踏まえて介護計画を作成し、初回は一ヶ月後に必ず見直しています。以降は三ヶ月ごとにモニタリングを行い、変化があればカンファレンスを開き、職員の意見や医師、看護師の指示も加味し状態に合った計画に変更しています。変化がない場合も六ヶ月ごとに見直して現状の把握を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランと連動させ、日々の記録を行い職員間で情報を共有しながらプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別的な関わりを大切にし、ニーズに合わせて柔軟な対応を心掛けている。		

洛和グループホーム大津(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加やボランティアの活用、地域の店を利用するなど豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族が納得したかかりつけ医と連携を図り適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に階下の協力医について説明し、かかりつけ医を選択してもらっています。24時間医療体制の下、協力医が定期的に往診し、看護師も週一回訪問しています。以前のかかりつけ医の往診も受け入れています。往診結果は医療連携記録やホームの協力医との連絡票を用い、家族や職員の情報を伝えながら関係を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で訪問看護師と連携を図り、情報を共有しながら適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員を立て、入退院時の対応についての体制が整っており、日頃から病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じ医師を交え話し合いの場を設けている	入居時にターミナル期の対応の指針について説明し、希望を聞いていますが、重度になれば再度医師を交えて話し合い、その都度意向を確認しています。過去に看取りも経験し、職員が安心して取り組めるよう体制を整備しています。家族の希望と利用者の状態から、ホームとしてできる事と他の方法を具体的に伝え、家族が納得する支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを周知し、職員全員が対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難場所を確認し、地域住民とも話し合っている。事業所ではマニュアルの勉強会や非難訓練を定期的に行っている。	年二回消防署立ち合いの下に避難訓練を行い、二ヶ月に一回事業所独自で訓練と避難方法の勉強会を行っています。運営推進会議において、地域の緊急時の避難場所を聞いて把握したり、協力や訓練参加の依頼を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレはさり気なく誘導するなど、職員一人ひとり心掛けている。	法人が行う研修の受講と職員の心がけにより、尊厳とプライバシー確保の基本的な理解が浸透しています。排泄時の声かけは周りに気付かれないようにさりげなく行ったり、言葉遣いで気になる時があれば職員同士で声をかけ合うなど、普段から充分配慮しながら支援しています。また入浴はできるだけ同性介助で行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいよう声かけを工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースの把握に努め、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を一緒に選んだり、化粧やマニキュアをしたり、その人らしいおしゃれが楽しめるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの力に応じ、一緒に準備や後片付けを行っている。出来るだけ利用者の前で行い、食事が楽しみになるよう努めている。	その日の冷蔵庫中の食材を見ながら利用者の希望を聴き献立を立てています。下ごしらえや盛り付け、片付けなど利用者の状態に合わせて、出来る方には声かけを工夫して参加してもらっています。行事計画に外食も組み込み、敬老会やお花見等はお弁当を取ったり、気分転換の外食イベントとしてホテルでの食事会も取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1回体重をチェックし、状態の把握に努めている。必要に応じ主治医とも相談し指導を受けながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、チェックしている。月に2回衛生士による口腔ケアを行っている。		

洛和グループホーム大津(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、一人ひとりの習慣に合わせて支援している。	排泄と水分チェック表にて個々の排泄パターンを把握し、タイミングを見てトイレ誘導を行っています。入居時に比べ失敗が少なくなり、尿意が戻り布パンツに移行した方もおられます。夜はトイレ排泄にこだわらず、希望に添ってポータブルを使用するなど一人ひとりに合わせた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事を心掛け、水分補給や運動など便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日その時の状況や一人ひとりの希望・タイミングに合わせて柔軟に対応できるよう努めている	毎日、概ね午後から夕方位の時間帯で入浴できるよう準備しています。週3回程度入ってもらっていますが、希望があれば毎日も可能で、時間の希望も聞いています。入浴剤や柚子湯などの季節湯も取り入れ、香りを楽しみリラックス効果を味わってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況を把握し、安心して過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイリングし、理解している。変更時は回覧し、確実に職員全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味の持てることを探り、役割や楽しみが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は出来る限り散歩に出かけられるよう支援している。また、普段行けない所に出かけるなど、本人の希望に沿った対応が行えるよう個別ケアの日をもうけている。	四季を通じて天気の良い日は、希望に合わせて近隣の三井寺や地域に散歩に出かけています。年間行事として、花見や紅葉狩り、梅見などを取り入れ、個別外出では懐かしい場所や希望の場所を本人や家族に聞き、ゆったりとした関わりの中で外出を楽しんでもらう機会を設けています。	

洛和グループホーム大津(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に沿って買い物に出かけられるよう支援し、支払いなど個々の力に合った働きかけを心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている方もおり、それ以外の方も希望があれば使用できるよう支援している。また、以前からの友人と文通を続けている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるような花や飾りを工夫している。また利用者が書いたり作ったりした作品により温かく落ち着いた雰囲気づくりを心掛けている。	玄関やリビングには職員が工夫した季節の飾りが施され、優しく温かい雰囲気となっています。廊下には習字や俳句などの利用者の作品が飾られ、ソファの位置を工夫したり、椅子を置き、落ち着いた居心地の良い空間作りが成されています。空調管理は常に利用者の立場を意識して調節を行い、加湿器を設置して温湿度に留意しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士居室で過ごしている時は、お茶の差し入れをするなど、その時間を大切に過ごせるよう配慮している。リビングではソファの配置を工夫し、独りになれるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は馴染みの家具を持ってきてもらえるように声かけし、居心地よく過ごせる工夫をしている。	居室の表札はそれぞれ違った木製の飾りのものを掲げています。部屋には馴染みの家具が置かれたり、家族の写真、手作り作品や、好きな俳優のポスター等が飾られ、個性的な居室となっています。寝具はできるだけ使い慣れたベッド、布団等を自由に持ち込んでもらっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ところどころに手すりを設置し、自立しながらも安全が確保できるよう工夫している。		